

科学技術・学術審議会における大学図書館の在り方に関する審議経過

年月	報告書等	概要（ポイント等）
2013年 8月	学修環境充実のための学術情報基盤の整備について 【科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学修環境充実に関わる学術情報基盤整備については、主に、コンテンツ、学習空間、人的支援の有機的な連携を図ることが重要 <ul style="list-style-type: none"> コンテンツ： 学術書の電子化、蔵書の電子的利活用、教材・授業等の電子的利活用、オンライン教育の体制整備、データの利活用・流通の促進、適切なコンテンツの管理と空間の確保 学習空間： ラーニングコモンスの整備 人的支援： 支援体制の構築、専門的人材の育成 ○ 学術情報基盤を生かすための教員の意識改革等、学術情報基盤確立のための運営体制の強化、教育内容の標準化と効果の分析、を推進する必要
2010年 12月	大学図書館の整備について 【科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学図書館に求められる機能・役割として、①学習支援及び教育活動への直接の関与、②研究活動に即した支援と知の生産への貢献、③コレクション構築と適切なナビゲーション、④他機関・地域等との連携及び国際対応、が必要 ○ 各大学における大学図書館の戦略的な位置付けの明確化、財政基盤の確立が必要 ○ 大学図書館の業務内容の変化を踏まえた図書館職員の育成・確保が必要
2009年 7月	大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について 【科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国出版社と電子ジャーナルの契約交渉に関して、国公立大学全体を包括する組織（コンソーシアム）の在り方等について検討する必要 ○ 機関リポジトリ構築の充実・推進及び大学全体におけるリポジトリ事業の位置付けの明確化、図書館業務としての定着、図書館職員の専門性の向上が必要 ○ 授業を受ける教室や自主学修のための図書館を中心とした物理的空間と ICT の活用によりコンテンツの相互利用を図る仮想空間を組み合わせ、効果的な学修を展開するための基盤整備を推進することが重要
2006年 3月	学術情報基盤の今後の在り方について 【科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学術情報基盤の中での役割を再認識し、電子環境下の新しい学術情報流通モデルを理解した上で、各大学の教育研究の特徴にあわせたそれぞれのハイブリッド・ライブラリー像について検討し、電子資料の導入・管理等を含めた戦略的な中・長期運営計画を立案し、実行していく必要 ○ 機関リポジトリへの対応や大学図書館のサービス機能の強化なども重要な課題